

\*緊急連絡

二〇〇九年八月二八日夜、カリフォルニア州サンディエゴで問題の事件は起きた。警察の緊急指令係（911）に連絡が入ったのは六時半過ぎだった。

・・・

トヨタによる一連の大規模リコールと、未曾有の「トヨタたたき」は、この急加速事故がきっかけだった。事故直前に車の中から携帯電話で連絡してきたのは、同乗していたラストレラさんだった。

911に入ったこの五〇秒余りの交信記録は、全米の主要メディアを通じて大々的に報じられた。主要テレビの多くは当初、事故原因を詳細に伝えるというよりも、大破して焼け焦げたレクサスの映像を何度も流し、トヨタ車の暴走が一家四人の命を奪ったという惨劇ばかりを報道した。

トヨタには不運も重なった。問題のレクサスを運転していたドライバーが、カリフォルニア州ハイウェイパトロール隊に所属する非番中の警察官だったからだ。

事故後間もなくして、地元警察などの調べで、アクセルペダルがフロアマットに引っ掛かり、ペダルがマットに押さえ付けられるような状態が続いたことが、急加速の原因と判明。その約一年半後には、米関係当局によるトヨタ車全般に対する調査結果で「電子制御装置には欠陥がなかった」ことも明らかになったが、このレクサス急加速事故がメディアを通じて全米に伝えられた当時は、アメリカ人の間ではトヨタ車に対する漠然とした不信感が広がっていた。

車の機能を十分に熟知しているはずのパトロール隊員が、なぜ事故を回避できなかったのか。ギアをニュートラルに入れたり、エンジンを切ったり、あるいはハンドブレーキを利用するなどして、車を止めることはできなかったのか。ひょっとしたら、パトロール隊員さえも回避できないほど、トヨタ車には重大な欠陥があるのではないかと……と。

ドライバーがパトロール隊員だったのはたまたまとはいえ、トヨタにとってはこれほど大きなダメージを受ける偶然の話はなかった。

しかも、挙句の果てには「脚色報道」（トヨタ関係者）まで出現した。それは、アメリカ三大ネットワークの一角を占めるABCテレビが一〇年二月二二日に放映した、トヨタ車の急加速の原因が電子制御装置の欠陥であることを立証したとする、南イリノイ大学のデービッド・ギルバート教授の実験だった。

トヨタ側は、タコメーター（エンジンの回転速度計）の針が急激に高速回転に転じたことを示す別の映像を、連続映像の中に一部はめ込む不正な操作を行ったABCを強く批判。また同テレビが、電子回路を人為的にショートさせるなどした同教授の実験を一方的に脚色して伝え、トヨタ車の電子制御装置に疑問を投げ掛ける番組を放送したことも非難した。

これを受け、ABC側はタコメーターの映像使用について「編集上のミスだった」とし、映像を操作したものであることは認めた。しかし、電子制御装置の構造に関する報道は「道理にかなったもので、報道する価値があった」と反論。トヨタが求めていた報道の取り消しと正式な謝罪は結局、行われず仕舞いとなった。

今回の大規模リコールや急加速疑惑に伴う「トヨタたたき」と、かつての日米自動車貿易摩擦は、表面的には全く異なる事象ではあるものの、①日本車の躍進でアメリカ自動車業界が危機にひんしていた、②とりわけUAW関係者や一部議員が日本車に対して怒りや不満を訴えていた、③いずれもUAWや自動車業界を保護しがちな民主党政権下で発生した——など、問題が発生した経緯や背景においては似通った面も少なくない。日本の経済専門家の間では「今回の『トヨタたたき』も結局は日米自動車貿易摩擦だった」と指摘する声もある。